

きっかけをつなぐ旅によう「パスポート」

PASSPORT.

vol. 70
FREE PAPER
地域の出来事に触れる
ソーシャルマガジン

サスケ・アカデミー徳島 特集

いっしょに学ぼう。

Editor's note 編集後記

新たな道を、ともに進んでいく旅でした。

「まだまだ始まったばかりで大した実績もないんですけど…」と初
お話を伺ったとき聞いていましたが、実際に施設の一日に
密着して見た職員の方々の様子からはそのような自信の無さは
垣間見えませんでした。一人ひとりが熱心に、新しい施設からこ
れ、そこからのやり方を模索している。今、目の前にいる人のために
ができるだろうかと、柔らかな親しみやすい雰囲気とともに、その
うな熱意を感じました。きっとここはもっと賑やかになっていくだろ
うと、そう確信が持てる場所でした。

— 長谷川 (構成/写真)

この仕事に対してやりがいしかない」と語ったスタッフの方々
の前向きな姿勢から、受講者の方に「教える」だけでなく、とも
に学びながら、明るい未来に向かって前進する姿が思い浮か
びました。社会性を身につけるということは、自分を受け入
知ってもらふ努力をすること。これは誰もこころを求められることであり、
とても難しい技術だと思えます。スタッフ自らが率先して努力よ
を行う姿に、皆さんはとても大事なことを学べる場所になってい
くと強く感じました。

— 神倉 (デザイン)

NEXT ISSUE 次回予告 2019年12月配布予定。次回の旅も是非楽しみ下さい。

 とくしま市ほせんター TOKUSHIMA
NPO CENTER

発行月 2019年10月

号 数 70号

発 行 徳島市市民活力開発センター

〒770-0847 徳島県徳島市幸町3丁目71番地の1 幸町会館1階

[TEL] 088-611-3886

[FAX] 088-624-3860

[mail] nposhimin@fm.nmt.ne.jp

[WEB] www.tokushima-shikatsu.com



NPO活動の支援、行政との協働事
業を推進するための拠点として
、徳島市や周辺の11市町村
(徳島東部地域定住自立圏)に活
動の場を持つNPO団体へさまざ
なサポートを行う施設です。

ABOUT PASSPORT.

“PASSPORT.”それは皆さんを特
別な旅へとお連れするチケット。行
く先に広がるのは、団体の活動や
人の想いに溢れた景色。見て、感じ
て、もっと知りたくなる。そんなき
っかけをつなぐソーシャルマガジン。
これを手にする皆様に、どうか素敵
な出会いがありますように。

See you next time.

この広報誌に関するご意見、ご感想は発行元である徳島市市民活力開発センター(088-611-3886)までご連絡下さい。

 とくしま市ほせんター

key
person

“働きたい” をカタチに

2019年4月開設した『サスケ・アカデミー徳島』。それは従来の枠組みに捉われない、新たな挑戦。全ては“働きたい”という想いに応えるために。

sasuke academy tokushima

サスケ・アカデミーとは？

働くことが困難な人たちに新たに学ぶ機会を提供するため、
2019年に新たなカタチの就労移行支援事業として始まった『サスケ・アカデミー』。
企業への就職から就職後のフォローまでをサポートする、類をみない技能習得型就労移行支援事業所となっている。

[名 称] サスケ・アカデミー徳島
[住 所] 徳島市沖浜東1-64-5 グランドハイアット1F
[TEL・FAX] 088-678-9935 / 088-678-9936
[定 休 日] 土曜・日曜・祝日
[営 業 時 間] 10:00～15:00



HP



map

就労移行支援を利用できる対象者

就労を希望する障がいのある方であり、企業に雇用されることが可能と見込まれる 65 歳未満の方（利用開始時 65 歳未満の方）。
具体的には次のような例が挙げられます。

① 身体、知的、精神、発達の障がいのある方、難病のある方

② 一般企業へ就職したいと考えている方

※就労移行支援事業とは？
就労を希望する障がいのある方に、就労に必要な知識及び能力向上のために必要な訓練、求職活動に関する支援を行う事業です。



↑電話対応の実践相手はスタッフが行う。



↑電話対応について、学んだことを思い返しながら実践する。

サスケ・アカ デミーの日 常

こちらはゲーム感覚で、頭を使う問題にみなで取り組むといった内容になっている。回色々と工夫を凝らしているとのことだがこの日にしたワークはなんと全て職員が手作りで作ったものだった。

曜日によっては※SST（ソーシャルスキルトレーニング）を行うときもあるそうだ。

午後からの時間は基本的にパソコンの技術について学ぶようになる。内容は個々に合わせて対応するようになっており、ワードやExcelといったOfficeについて、それぞれが学びたいものを学ぶ。注目すべきは、職員が敢えて寄り添わないこと。自分で参考書を見ながらパソコンと向き合い、課題に取り組んでいる。最終的に目指すのは、一般就職をして継続的に働いていける人材になってもらうこと。そのためには単純に技術を教えるのではなく、自分で知識や技術を習得する方法を身に付けてもらう必要があるからだ。もちろん、質問はいつでも受け付けており、分からないところの解説などはすぐに行えるようになっている。

全てのプログラムを終えた後は、一日を振り返る日報を記入する。その日に取り組んだことと、学んだことをしっかりと振り返し、最後に事務所の清掃をして終了。曜日によってプログラムは変わっていくが、基本的にはこういった流れを過ごすようになっていくこと。

一日の始まりは朝礼から。挨拶の後行動指針（行動理念）をみんなで読み上げ、利用者は「体調管理シート」に自身の状態を記入する。このシートに記入された情報がとても大事で、その日の朝食のことや体調のこと、十分な睡眠がとれたか、薬を服用しているか、今の気分はどうか分かるようになってくる。自ら申告してもらうことで、職員もその人の状態を把握することができ、一日のプログラムを通して気に掛けることができる。

↑朝礼の様子。

↑軽く運動をして、心と身体とほぐす。

↑ビジネスマナー講座。

↑グループワークの様子。カードを使って脳トレ。

↑文章チェック。文章中に隠された間違いを探す。

↑一日の振り返り。

※SSTとは Social Skills Trainingの略で、「社会生活技能訓練」や「生活技能訓練」などと呼ばれている。

TIME SCHEDULE とある日のスケジュール

15:00	14:45	14:05	13:55	13:15	13:00	12:00	11:20	11:10	10:30	10:15	10:00
日報記入・清掃	パソコンヒアリング	休憩	パソコンヒアリング	文章チェック	お昼 休み	グループワーク	休憩	ビジネスマナー	体操orウォーキング	朝礼・予定報告	
											
↑一日の振り返り。	↑文章チェック。文章中に隠された間違いを探す。	↑グループワークの様子。カードを使って脳トレ。	↑ビジネスマナー講座。	↑軽く運動をして、心と身体とほぐす。	↑朝礼の様子。						

支援員の難しさとやりがい

発達障害は目に見えるものではなく、分かりにくいものである。度合いや特徴も個人差が大きく、社会の中でなかなか理解され難いのが現状だ。障がいを持っている方は色んな悩みや、心に傷を持っている場合が多い。だからこそ支援員自身がおの確かな知識を身に付け、訓練を積み重ねていかなければならない。サスケ・アカデミー徳島の職員も、臨床心理士からSSJのことを教わったり、就職活動のために履歴書の添削の仕方や、人表のどこに気を付けるべきなのかを、研修行つて学んだりしている。他にも、模擬面接を行ったりと、利用者に寄り添うための技術や知識を日々学んで成長しているのだという。決して楽ではない大変な仕事であると思うが、上手く言葉にできませんけど、やりがいを感じる瞬間がいろいろあります。というか、やりがいしかないですね(笑)と笑って返す二人の様子から、本当にこの仕事に誇りを持って取り組んでいるのだということが伝わってきた。



就労支援員 西岡 桂
Kei nishioka



サービス管理責任者 森山 英樹
Hideki Moriyama

確かな信頼関係

「うちの雰囲気はとっても良いですよ。」と事前聞いてはいたが、実際に訪れてみると確かにそうだと感じた。一日のプログラムを通して、利用者や職員の間には「親しみ」と「信頼」が感じられた印象的だったのは、ビジネスマナー講座として電話応対の練習をしているとき「自信を持って信用を持って大丈夫です。」と、行き詰った職員から利用者に向つ直ぐ、落ち着いた声で言葉をかけている姿。そして一生懸命、もう一度挑戦して、上手くできたときには職員も利用者も一緒に喜んでくれたことだ。利用者に話を伺ったところ「初めて来たときは不安だったけど、職員の人々が優しく寄り添ってくれたので、ええ人やなあって、思いました。おかげで馴染むことができた。」「パソコンがきやまになったのも、エクセルができてきたようになったのも、この人のおかげ。試験を受けようっていうのも、ここに来なければ思えなかった。」と話してくれた。利用者は職員一人の姿勢や熱意を信頼し、そんな利用者の成長を、職員が心から願っている。西岡さんは「徳島事業所は4月に始まったばかりなので、まだまだこれから、もっと良い場所にしていけるように頑張ります!」と、意気込みを新たにすのだった。



key person interview

就職≠ゴール

取材に応じてくれたのは就労支援員の西岡さんと、サービス管理責任者の森山さん。サスケ・アカデミー徳島を背負う二人から、ここを利用する人にどうなってもらいたいという想いの丈を話してくれた別生活をするだけなら「一般就職にこだわらなくてもいいんです。それでも一般企業で働くことを選ぶなら、嫌々働くんだつたり、すぐに辞めてしまふようなことになるのではなく、継続的に働ける環境に出会ってほしい。就職して終わりではなく、大事なのはそこからなんです。」と話したのは西岡さん。就労移行支援ということで、「一般就職に向けて技術や知識を学習してもらおうけれども、最たる目的は就職をしてもらうことではないのだ」と言うサスケ・アカデミー徳島では、就職した後に必要になる大切なものも学びます。集団行動とか、コミュニケーションのとりかたとか。みんな抱えているものが違うんですね。泣いてしまふ人もいれば、集中力が続かなかつたりする人もいます。声の大きさとか相手との距離感が分からなかつたり、そんな各々の事情に寄り添いたい。そして受け入れてくれる企業さんに、そういった事情を理解してもらい、サポートしてもらえるように、私たちが尽力していきたい。」と言葉を続けた。

